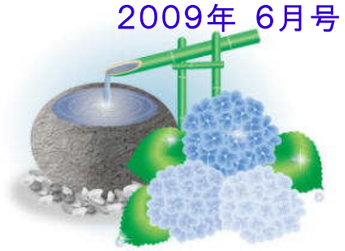
熊本県救護施設協議会

熊救協

http://kumakyukyo.sakura.ne.jp

2009年 6月号



ご挨拶

熊本県救護施設協議会会長　藤本　和彦

アメリカの金融危機に端を発した世界同時不況が、日本経済を尋常ならざるスピードで悪化させてしまいました。

今回の不況は、１９２９年の世界恐慌に匹敵すると言われていますが、実は、この１９２９年の世界恐慌の折に救護施設は制度化され、日本ではじめてできた施設といわれています。従いまして、救護施設は８０年という長い歴史の中、社会の片隅で、細々とその時代の最も困った人々を受け入れる役目を果たしてきたことになります。

今回の不況では、改めて家族の崩壊、働く場でもパートとフルタイム、正規と非正規へと２極分化している現実があぶりだされました。

今日は大企業の管理職、明日は仕事を失いホームレス、年金で暮らしている年老いた両親に世話になっている若者、低い賃金にあえいでいる母子家庭という厳しい現実があります。社会に夢が無く、年金・医療・福祉のセーフティネットにもほころびが見え始めていると言われています。

救護施設は社会の基盤が崩れ、流動化して行く中で、数も少なく大したこともできませんが、最後の最後のセーフティネットとして、存在すること自体に意義があると思われます。

この「熊救協情報誌」が広く、救護施設の現状を知っていただくための良き媒体になるよう関係者一同研鑽を重ねて参りますので、引続きお目をとおして頂ければ幸いです。

ご挨拶

千草寮施設長　片　山　辰　己

はじめに千草寮についてご紹介させていただきます。昭和36年八代郡千丁村立救護施設千草寮として設立、職員の努力あって地域に根ざした施設として地域の皆さんにも理解が得られ色々な行事、イベントにも多数の住民の方々が参加、地域住民との交流を深めてこられましたところでございます。

平成17年8月、市町村合併により八代市に編入。平成21年3月、市、行財政上の改革により民間に譲渡、平成21年４月1日社会福祉法人東泉会が救護施設千草寮の譲渡を受け以前に倍し職員一同、入所者処遇につきましては、個々の人格を尊重し、いままで施設でやられたことを基本にその人のケースを充分に検討、更に職員での検討を重ね、その人にあった処遇計画を作成、社会復帰に向けた支援を図り千草寮の計画方針として

①利用者の基本的人権を保障し主体性を尊重した自己実現を図ります。
②多様な障害を持つ利用者のニーズに応じたサービスの提供に努めます。
③地域の社会資源におけるネットワークを構案し、地域に根ざした施設を目指します。
④職員の熊救協などとの交流を深め、特に研修会により一日も早く救護施設の役割を果たすべく努力に重視したい。

以上のことを常に念頭に置きながら信頼の輪を広げていき、これから全て勉強でございます。どうか皆様方のご指導並びに御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

施　設　名	施設長名	所　　在　　地	定員	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	本山　雅徳	熊本市春日５丁目１７番３６号	６０	S35. 12. 1	096-352-6602
しらがね寮	一安　俊範	球磨郡あさぎり町上西835-2	５０	S43. 4. 1	0966-45-6668
天草園	三宅栄一郎	天草市河浦町宮野河内3662-2	７０	S43. 12. 10	0969-78-0053
菊池園	小西　守彦	菊池市泗水町吉富17-1	５０	S47. 10. 11	0968-38-2956
野坂の浦荘	永山　惠一	葦北郡芦北町大字田浦町358-2	５０	S55. 5. 1	0966-87-2277
真和館	藤本　和彦	阿蘇郡西原村大字鳥子3072	５０	H18. 4. 28	096-279-1121
千草寮	片山　辰己	八代市千丁町太牟田2618	５０	H21. 4. 1	0965-46-0032

事業検討委員会

役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	徳永　定光	千草寮
副委員長	生活支援員	松中　直人	天草園
委員	相談員	渕上慎一郎	銀杏寮
〃	生活指導員	深水　昌彦	しらがね寮
〃	介護支援員	蓑田　正人	菊池園
〃	指導員	平塚　文博	野坂の浦荘
〃	介護職員	森田　良治	真和館

役職員名簿

役職名	職名	氏名	施設名
会　長	施設長	藤本　和彦	真和館
副会長	施設長	永山　惠一	野坂の浦荘
監　事	施設長	小西　守彦	菊池園

研修委員会

役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	一安　俊範	しらがね寮
副委員長	生活支援員	蒔本　健作	天草園
委員	介護ｽﾀｯﾌ	大西亜希子	銀杏寮
〃	栄養士	濱﨑りう子	菊池園
〃	介護支援員	中村　純代	野坂の浦荘
〃	介護職員	田上雄次郎	真和館
〃	介護支援員	松田理恵子	千草寮

調査・研究委員会

役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	三宅　浩徳	天草園
副委員長	生活支援員	冨田　竜二	菊池園
委員	主任	松尾　　歩	銀杏寮
〃	介護職員	畠山　真一	しらがね寮
〃	介護支援員	横尾ひとみ	野坂の浦荘
〃	生活指導員	田浦　久美	真和館
〃	生活指導員	漣　　和美	千草寮

新任職員紹介

真和館　江　浦　一　美

４月から真和館で勤務することになりました江浦一美です。熊救協及び九救協の事務局も担当します。

施設で働くのは初めてですが、職員及び入所者の方々に優しく声をかけていただき、元気をもらっています。以前、読んだ本に私の好きな言葉の**ありがとう**の大切さと、**そ**(掃除)**わ**(笑う)**か**(感謝)が大切な事が書いてありました。私も掃除で心も磨き、笑顔を絶やさず、感謝を忘れず頑張りますので、ご指導の程よろしくお願します。

野坂の浦荘　介助員　山崎哲成

私は、今年一月より野坂の浦荘で介助員として勤務しています。仕事内容は生活支援を主とし、他に入所者の方々の健康維持や体力作りのための作業訓練(農作業等)の支援も行なっています。野坂の浦荘の事は幼少の頃より知っていて、入所者の方々とも馴染みがあり、すぐに慣れ親しむことができました。しかし、前の仕事が工場で機械相手の内容だったので全く違い、最初は戸惑い等もありましたが、今は職場の雰囲気にも慣れ、毎日楽しく仕事が出来ています。今は出勤するのが楽しみになっている位です。福祉の仕事は、入所者の方が毎日を有意義に生き甲斐を見つけて過ごしていく為のサポートをしていく仕事だと思います。入所者の気持ちになり、どのようにしたら快適に過ごしてもらえるかを考えていくことが必要だと思います。私は介護福祉士の資格を持っていないので、これからの目標にしていこうと思っています。まだまだ、覚えなければならないことばかりなので、先輩達からいろいろ学び、介護の仕事をしていく上で必要な知識や技術を学習し、自分のものにしていこうと思います。これからも頑張っていきますので、ご指導よろしくお願いいたします。

熊救協 2009　No14　編集後記

しらがね寮に配属となり2年が経過し、ようやく慣れたかなと思っていた時期に、調査･研究委員をやってみないかとの話がありました。不安や緊張でいっぱいでしたが引き受け参加させて頂くことになりました。今まで事務の経験ばかりでしたので、先輩方に迷惑をかける事が多く毎日勉強の日々が続いております。今回、委員会で勉強させてもらいたいと思っています。よろしくお願い致します。　《熊救協調研委員:畠山真一(しらがね寮)》

編集:熊本県救護施設協議会
調査･研究委員会
発行:熊本県救護施設協議会

事務局:〒861-2401　熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
真和館　Tel (096)279－1121
Fax (096)279－1122

事業検討委員会

【平成20年度事業報告】

■　20年度は、5月に植木町の荒木観光ホテルにて救護施設交流会を計画。20年度は大分･熊本スポーツ交流会の担当県でもあったため、大分･熊本スポーツ交流会を救護施設交流会として、大分県からも2施設の参加を頂き、計画通りに実施出来た。
　事業検討委員会については、年3回を予定していたが、11月が開催出来ず年2回の実施であった。

■救護施設交流会
　20年度は、大分･熊本ゲートボール交流会の熊本県担当により、救護施設交流会として植木町の荒木観光ホテルにて実施。ゲートボールとグランドゴルフの2種目に、大分県より約30名、福祉事務所とボランティアで約40名、選手･審判の総勢約220名の参加を頂きたいへん大きな交流会となりました。ゲートボールは、菊池園が近年たいへん安定した強さを誇っていましたが、大分県の施設に惜敗し、久し振りに大分県に優勝が渡ってしまいました。グランドゴルフは、前回の個人戦から団体戦とし、チームは7施設の利用者で組合せ、各施設の利用者がほぼ均等に入賞される形をとりました。起伏のある天然芝の本格的なコースを、福祉事務所と各施設の利用者が一緒に競技し、普段では出来ない交流が図られ、とても有意義な大会となった。

【平成21年度事業計画】

■　5月にパークドームにて、熊本県7施設による救護施設交流会を計画。6月の大分･熊本スポーツ交流会については、大分県担当により、熊救協事業検討委員会の事業としては取り扱わず、各施設の自由参加とする。

■事業検討委員会
　年3回(5月･10月･2月)予定。

研修委員会

【平成20年度事業報告】

■職員研修会報告

第1回　H20年6月19日（木）　みゆきの里「和楽」　参加者33名
　午前　講話　感染予防等について　講師　熊本県健康福祉部健康危機管理課　矢野参事様
　午後　討議　職種別によるグループ討議　（各職種別意見交換会）

第2回　H20年10月23日（木）　熊本大学医学部付属病院山崎記念館研修室　参加者29名
　午前　講話　職員のメンタルケア等について　講師　熊本大学医学部付属病院　神経精神科医師　藤瀬　昇様
　午後　講話　介護保険のしくみと地域包括支援センターの役割と実践
　　講師　熊本市中央4地域包括支援センター･やすらぎの森　センター長　那須　久史様

■研修委員会開催

第1回H20年4月24日（木）千草寮　　第2回H20年7月16日（水）天草園
第3回H21年1月22日（木）（銀杏寮）にて年3回委員会を開催しました。

【平成21年度事業計画】

社会福祉基礎構造改善改革に伴う利用者の権利擁護、情報公開、サービス評価基準、苦情解決制度、福祉新時代に対応していくためには、職員の意識改革並びに職員資質の向上が不可欠であるとともに利用者サービスの質の向上に重点を置き、利用者支援研修、職員支援研修を実施することで、専門職としての資質の向上を図る。

･第1回　平成21年6月18日（木）　西原村構造改善センター
　午前　講話『救護施設職員の心構えと福祉QC等の取り組みについて』　講師　熊本県救護施設協議会　会長藤本　和彦様
　午後　討議　職種別により問題提起してもらい討議

･第2回　平成21年10月22日（木）　みゆきの里「和楽」（予定）
　午前　講話　障がい者に関する講話を依頼の予定　講師　益城病院　松永医師（依頼予定）
　午後　各職種別グループ討議（内容に変更の場合もあり）

･研修委員会　年3回（4月23日、8月20日、1月21）予定

調査･研究委員会

【平成20年度事業報告】

■委員会の開催：4回

第1回　･熊救協情報誌第12号編集･熊救協ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ更新･各種マニュアル整備状況（ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞへの掲載）
第2回　･熊救協情報誌第13号編集･各種マニュアル整備状況･熊救協ホームページ更新
第3回　･熊救協情報誌第13号編集
第4回　･熊救協情報誌第14号編集･熊救協ホームページへの追加掲載マニュアル

平成20年度は熊救協ホームページに施設職員のためのマニュアルとして、入所時対応マニュアル、感染症対応マニュアルを掲載し、各施設で活用できるようにした。また熊救協情報誌については県内福祉事務所、九州地区救護施設へ発刊していたが、幅広く知ってもらうために、県内の精神科病院への発送を新たに実施した。

【平成21年度事業計画】

･年4回（4月10日、8月、10月、2月）予定
･熊救協情報誌14号･15号の発行
･熊救協ホームページのメニューに下記マニュアルの追加掲示
　①緊急時対応マニュアル　②所在不明者対応マニュアル　③利用者接遇マニュアル

平成21年度は情報誌の発送箇所増加により、もっと多くのホームページへのアクセスが期待されるため、各種マニュアルの整備と、救護施設の特色を活かした掲示板も検討していきたい。

平成21年度 救護施設交流会 Inパークドーム熊本

去る5月21日熊本市のパークドームにて、熊本県救護施設交流会が実施されました。

利用者･来賓･ボランティア･施設職員の総勢約250名の参加を頂き盛大に開催することができました。これも一重に、県本庁はじめ各福祉事務所の皆様方の競技への参加協力や、グラウンド･ゴルフのコース設定や記録係等、大会運営にたいへんご尽力を頂きました熊本県グラウンド･ゴルフ協会の井上会長様をはじめ会員の皆様のご協力の賜物であります。改めまして深く感謝申し上げます。

救護施設交流会は、県下7つの救護施設が年1回一同に会し、スポーツを通じて利用者の親睦を深めるとともに、社会適応性を養うこと等を目的に実施されています。今大会も前回同様、グラウンド･ゴルフとニチレクボールの2種目で行われ、グラウンド･ゴルフに約100名、ニチレクボールに15チーム45名がエントリーされました。1年ぶりの再会を喜び、色々な会話を楽しみながらプレーが出来たグラウンド･ゴルフ、施設対抗の団体戦とあって最後まで白熱したゲームが展開されたニチレクボールと、両競技共に最後までたいへん盛り上がり楽しんで頂きました。

グラウンドゴルフでは、普段練習しているコースよりボールが早く転び、ゲームが始まった直後はほとんどの皆さんが悪戦苦闘されていましたが、次第にコースに慣れられるとホールインワンが続出、それぞれに実力を発揮されとても楽しまれていました。又、各組に福祉事務所の方に入って頂き、普段とは違う交流が図られ、更に関係を深めて頂いたのではないかと思います。

ニチレクボールには、各施設より3名1組で参加して頂き、予選(4ブロック)と決勝に分けて実施されました。決勝トーナメントに4チーム勝ち上がり、その内の2チームが天草園チームで、決勝も天草園チーム同士の対戦となりましたが、同じ施設とは思えないくらい優勝を掛けてとても白熱した試合が展開されました。又、施設長チームも参戦、前回に引き続き、仕事を忘れられた雰囲気で勝負にこだわり挑まれましたが、利用者チームに惨敗し予選敗退。しかし、施設長チームが負けると会場はたいへんな盛り上がりを見せる等、利用者･職員間においても普段とは違う有意義な交流が図られました。

今後は、地域同様に利用者の高齢化･重度化が更にすすみ大会の実施も検討しなければならない時期が来ると思われますが、色々な意味でたいへん意義ある交流が図られていると思いますので可能な限り交流会を実施出来ればと考えております。

利用者のよりよい生活環境の向上を目指し、県下の救護施設が一体となって取り組んで行きたいと思っておりますので、各方面の関係各位の皆様方には色々な面でご迷惑をお掛けすることが多々あるかと思いますが、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

笑顔で集う「グラウンド・ゴルフ」

熊本県グラウンド･ゴルフ協会　会長　井　上　雅　康

「いつでも」「だれでも」「どこでも」「いついつまでも」「世代を超えて」好きなグラウンド･ゴルフを楽しみ、みんなのアイディアと自主的な活動を好きなレベルで出来るスポーツとして、皆様の元気な姿を年一回の出会いでありますが、物静かな「いつもながら」の笑顔を楽しみにしています。

過去4･5年になりますが、遠くから互いに遠慮がちな距離は、だんだん縮まり、顔合わせが笑顔で会釈をかわす素晴らしさは、スポーツの醍醐味と言えます。

今年も多くのホールインワンが出ましたネ！本部の職員は、賞品の数とにらめっこでしたよ「グラウンド･ゴルフ」は「本格ゴルフ」をアレンジした兄弟スポーツです。

「バーディ」「パー」「ホールインワン」「ペナルティ」「スコア」「アンダー」等ゴルフ用語を使用します。ただしエチケット･マナーは仲間を大切にすることで厳しくゲームが行われることを知って下さい。

皆様の笑顔と元気を「だれでも」楽しみにしています。次のステップは声を大きく、ホールインワンを皆で喜びましょう。